

くるぞ　くるぞ　アルメニア

かつて、ここには高い崖がありました。その下を通ると、かならず「くるぞ、くるぞ」というおそろしいさけび声が聞こえました。声が聞こえると、人びとは、走ってそこらにげました。やがて、人びとはその道を行かなくなりました。

あるとき、ひとりの男がそこを通りかかりました。男はお金も何もかも失い、不幸にうちひしがれていました。

「おれは命なんかどうかでもいい。この道を行ってやる。崖がくずれてきたって、死んじまえばそれでいいのさ」

男は崖の下までやって来ました。すると、声がひびきました。

「くるぞ、くるぞ」

男は、

「来るなら来い、待つてるぞ」とさけびました。そのとたん、崖の岩がぱかっと割れて、中から金のかたまりをはきだしました。

男はそれを拾うと家に持っにかえり、嘆きも不幸もすっかり忘れましたとき。

原話…『世界の魔女と幽霊』日本民話の会・外国民話研究会／三弥井書店
再話…村上郁